生活科

子どもの思いや願いをかなえる生活科の実践

新潟市立葛塚東小学校
飯田　隆介（令和３年度）

本実践では、児童が自ら思いや願いをもち、その実現に向けて主体的に対象に働き掛けながら、学びを深めるための教師の手立てを探った。

実践１の第１学年「あきと　ともだち」では、絵本や図鑑を活用して児童の「やってみたい」という思いを引き出すとともに、友達同士をつないだり、材料や道具、「コツ」を掲示したりすることで、おもちゃ作りを支えた。一方で、困っている児童に教師が直接指導したことや、材料が十分でなかったことから、児童自身が試行錯誤し、思いや願いをかなえる手応えを得にくい場面もあった。

そこで、実践２の第２学年「おいしい　やさい　そだてたい」では、教師がすぐに答えを教えるのではなく、児童の経験や実態、思いや願いを丁寧に見取り、必要に応じて友達や教材とつなぐことを大切にした。また、鉢を置く場所や世話に使う道具を自分で選び、調べたことを基に試せる環境を整えた。その結果、児童は野菜の状態や天候に応じて世話の方法を工夫したり、自ら課題を見いだして解決したりするようになった。さらに、自分の知識や経験を友達に伝える姿も見られた。

これらの実践から、児童の思いや願いをかなえるためには、興味・関心を高める導入や、試行錯誤を可能にする環境構成に加え、**児童を有能な学び手として捉え、必要以上に教え込まず、児童同士や教材をつなぎながら学びを支える教師の居方が重要である**と考える。教師が児童の姿を丁寧に見取り、適切に支援することで、児童は自ら課題を解決する喜びを味わい、気付きの質を高めながら、新たな思いや願いをもって学び続けることにつながる。